

HLPF、VNR、そしてVLR 地域で、そして「地図にも載らない場所」で 「誰一人取り残さない」

2021年9月24日（金）

（一社） SDGs 市民社会ネットワーク

（特活） 関西NGO協議会

三輪 敦子

前文

- ・「誰一人取り残さない」重要要素としての5つのP：人間（People）、地球（Planet）、繁栄（Prosperity）、平和（Peace）、パートナーシップ（Partnership）

1. 宣言

- ・「誰一人取り残さない」
- ・包括的で普遍的、変革的な人間中心の目標とターゲット
- ・2030年までに達成

2. 持続可能な開発目標（SDGs）

3. 実施手段とグローバル・パートナーシップ

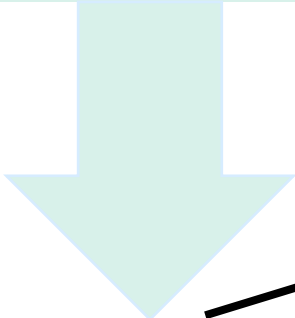
- ・政府、市民社会、プライベート・セクター、国連機関その他の主体と利用可能な全ての資源の動員

4. フォローアップとレビュー

自発的、効果的、参加型、透明かつ統合的な枠組みが不可欠

SDGs = 本名は「我々の世界を変革する：持続可能な開発のための2030アジェンダ」

17のゴールのもとに
169のターゲットと
231の指標がある



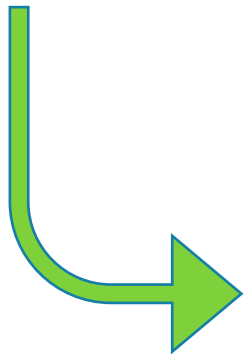
前文	宣言	SDGs	実施手段	フォローアップ&レビュー
5Pの説明	パラ1 ～ パラ59		パラ60 ～ パラ73	パラ74 ～ パラ91

目標（ゴール）	
ターゲット（数字） + 実施手段（a,b,・）	指標

VNR等

国内レベルのフォローアップとレビュー

- 各国の現状や政策、優先課題を踏まえて実施
- 国を主体としつつ、あらゆるステークホルダーの参加を促進
- 長期的な方向性、達成度合い、課題、ギャップを提示



VNR (Voluntary National Review 自発的国家レビュー)

- SDGsの進捗を議論するために毎年7月に開催されるハイレベル政治フォーラム (High Level Political Forum) で発表
- 2020年までに168カ国が提出し、2021年は44カ国が発表
- **日本は2021年7月に2回目の発表を行った** (1回目は2017年)

- ・「2030アジェンダの履行に関する自発的國家レビュー2021～ポスト・コロナ時代のSDGs達成に向けて」 <https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/vnr/>
- ・多様なステークホルダーの参加に関しては、政府SDGs推進円卓会議の「進捗管理・モニタリング分科会」を活用し、「6. 各目標の達成状況」に「(2) 円卓会議民間構成員による進捗評価」という章。「政府による進捗評価」と「ステークホルダーによる進捗評価」が併記されている
- ・SDGsジャパンではテーマ別ユニットからの提言を募り分科会に提出。4月23日には市民社会と関係府省庁との意見交換会の開催
- ・パブコメ（4月30日～5月13日）を経て完成
- ・7月15日にビデオメッセージで発表 (<https://www.youtube.com/watch?v=06O1TowRi0>)
- ・7月16日にSDGs Lab (<https://sustainabledevelopment.un.org/hlpf/2021#labs>) (https://sustainabledevelopment.un.org/content/documents/29248Summary_VNR_Labs_2021.pdf)

- ・ **2019年実施指針改定**の際の成果：優先課題に「**ジェンダー平等の実現**」が入った
- ・ **2021VNR案**へのパブコメの成果と課題
 - (1) 「国民」を「市民」に（同旨多数）：「可能な限り反映した」が、P53 「医療及び介護の提供体制については、サービスを利用する市民の視点に立って、」の1カ所だけだった
 - (2) 「今後の取り組みの参考にする」多数
 - (3) 追記事項としては：「ジェンダー平等の実現」「女性に対する暴力」の例示、「生物多様性の損失」等。
 - (4) 生活保護受給者の男女比については「男女の差を示すものではないため記載しない」との返答

- 市民社会としてのSDGs評価として「SDGsスポットライトレポート2021」を作成
https://d7b557ca-e496-4292-be6d-a6bfb1e38152.usrfiles.com/ugd/d7b557_d047683140ed40d59dd1b95c71e8def6.pdf
- 全体を通じた課題：ベースラインデータを踏まえた目標値の設定がないので、進捗を測ることが困難。バックカスティングをおこなうための「足がかり」がない状態。
- 障害等、グローバル指標で求められている属性別データがないターゲットがいくつもある。「誰一人取り残さない」ための評価が不可能な状態。
- 「政府による進捗評価」と「ステークホルダーによる進捗評価」との間の「距離」：市民社会からのインプットにより「距離」が明確になったという効果を「政府による実施」にどうつなげていくか。政府による「市民社会の存在の重要性の理解」を具体的な政策・施策の実践につなげるために

- ・ 2030アジェンダの「ステークホルダーによるフォローアップ・レビューのプロセスへの参加」に基づいて推奨され、公的プロセスではないものの、実践が広がっている
- ・ IGESのウェブサイトの「VLR Lab」 : <https://www.iges.or.jp/jp/projects/vlr>
- ・ 北海道下川町、浜松市、**富山市**、北九州市を含め全23都市のVLR情報が掲載
- ・ 「誰一人取り残さない」ためには市民社会の経験と声が不可欠：①**市民社会との協働**
- ・ マルチ・ベネフィットを生み出せる施策をどう実施するかについての知見を是非、地域から！：②**縦割り行政の克服**

「続く世界」へのブレイクスルーを地域から

- このままでは世界は続かない（IPCC報告）
- そのためには**システムチェンジ**が不可欠
- だが、どこからどうやって?? 人類最大の難問??
- それぞれのシステムが巨大化していて、その内部も非常に複雑：システム間を調整しながら変革するには膨大なエネルギー・知力・体力が必要だが今しかない
- 「ウェルカム・ジェネレーション」にとどまらず、私たちすべてが「**ブレイクスルー・ジェネレーション**」に
- 「誰一人取り残さない」システムとは「地図にも載っていない場所」で機能するシステム
- それを探るためのツールとしての**VLRをブレイクスルーの跳躍台（スプリングボード）**に